

「渋沢栄一」特集 ～2021年大河ドラマ「青天を衝け」より～

「天才渋沢栄一」明治日本を創った逆境に強い男と慶喜」



星亮一／著

「父渋沢栄一」



渋沢秀雄／著

「小学校では学べない 渋沢栄一のやりぬく力」



齋藤孝／著

銀行・株式取引所・保険会社・鉄道…。近代日本のあらゆる産業と経済の仕組みを整えた偉人は、どのように生まれたのか？「日本資本主義の父」渋沢栄一の波乱万丈の一生を、イラストを交えて紹介。わかりやすい解説付き。

齋藤孝氏は1960年静岡県生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程等を経て、明治大学文学部教授。専門は教育学、身体論、コミュニケーション論。著書に「声に出して読みたい日本語」など。

近代日本経済の父は、こうして意思決定してきた。公益を追求した経済人・渋沢栄一の軌跡と素顔を、息子であり、実業人・文化人として活躍した渋沢秀雄が描く。秀雄四男・渋沢均による「父渋沢秀雄との暮らし」も収録。

渋沢秀雄氏は1892年東京生まれ。東京帝大卒。渋沢栄一の四男。田園都市株式会社取締役、東宝会長、東映取締役を歴任。随筆、評論でも知られた。著書に「明治は遠く」など。

農民、商人から幕臣、明治官僚、実業家の道へ。近代日本を築いた天才の活躍の裏には「論語」と徳川慶喜、日本古来の道義心があった。日本を“世界レベル”に引き上げた渋沢栄一の刮目の人生を紹介する。

星亮一氏は、1935年宮城県生まれ。日本大学大学院総合社会情報研究科博士課程前期終了。福島中央テレビ報道制作局長等を経て、歴史作家。著書に「京都大戦争」「呪われた明治維新」など。

1月の催しもの

とき	催しもの
18日(月) 午前11時～	あかちゃん絵本 よみきかせ会 ※参加は先着4組
24日(日) 午前11時～ 午後3時～	子ども工作教室 ※参加は各回4組 予約受付は、1月4日(月)から図書館受付カウンターで行います。

◆展示会

「図書館所蔵複製絵画展」

1月9日(土)～1月17日(日)

その他の本

- ◆「経済と道徳」 渋沢 栄一／著
- ◆「論語と算盤～モラルと起業家精神～」 渋沢 栄一／著  
道添 進／編訳
- ◆「原点でよむ渋沢栄一のメッセージ」 渋沢 栄一／著  
島田 昌和／編
- ◆「君から、動け。～渋沢栄一に学ぶ「働く」とは何か～」 佐々木 常夫／著
- ◆「お札に描かれる偉人たち～渋沢栄一・津田梅子・北里柴三郎～」 楠木 誠一郎／著
- ◆「徳川慶喜と渋沢栄一～最後の将軍に仕えた最後の幕臣～」 安藤 優一郎／著

俳句 「初東雲」

川一筋初東雲の一字  
同輩の近況聞きつどんど焚く  
陽だまりをわが世としたり初雀

市川 信子  
伊藤 元  
一色 無音

川柳

白帝の城もさやかに今日も晴れ  
古里の訛が心地良い帰省  
とりどりの種を選んで春を待ち

扶桑川柳クラブ

山田津多恵  
前本たかし  
玉田 博子

短歌 「若水」

十年経る母の遺影に若水を  
汲めば仏間に初日射し入る  
隣家に息子夫婦は居を構え  
共に栄えん新しき年  
丸ポストひつそりと立つ町はずれ  
春呼ぶごとく小鳥来て鳴く

ふそう短歌会

酒井外美江  
中山 幸代  
北村 久子

詩吟 「元旦試筆」

紅霞海を出でて九坂に満つ  
東帝の恩波唯大なる哉  
世路の陰夷梅知るや否や  
霜辛雪苦一枝開く

山鹿 素行

「意」 赫々たる太陽は海から出て、海面に立ちこめていた薄い霞をたちまち紅に染めて、輝く光は天地一杯に拡がる。今朝は万物一新の元旦の朝である。日の神の偉大なる恩恵が偲ばれる。美しく咲き誇っているあの梅の木は、世の中のせわしく困難なことを知っているだろうか。これまでの雪や霜の寒さにもめげず、咲き始めたのであろうか、日の神の恩沢の広大なるをここに思いがする。

正風流二代目家元 山内 正風